

2017 (H29)
神無月
10/25
293
山

石馬允たじ

山装う

目の前の山が美しく着飾り、紅葉も本番を迎えております。週末になると必ず天気も崩れ、石月を見ることも出来ず、イベントも中止に陥り、してたらまた神無月も終まいといった1ヶ月でした。その間に赤石岳の初冠雪、雨上りの虹を見ることも出来、小さな喜びを味わっていました。

松茸も中半を過ぎると急に姿が見えなくなり、子どもや主人も怒心に山に入り、めらめらこらこら駆け回って空振りばかり、続くようにおこしおこしといったようになりました。晩秋のきのこの霜降りしめじも出て、今年とこのこの時はこれにて終了です。何事もなくこの期間が通り過ぎたことは私にとって何よりも有難いことでした。半年の天のお恵みが次山有りませうように——。

遠くの山々はとても美しいのですが、目の前の庭は落ち葉で賑やかなりとこの上無しです。

近所のおもしろいおばあちゃんの話

おばあちゃんというと私もおばあちゃんなので、それほど少しくらいと想像して下さず、おしゃべりも大好きで近所はもちろん遠くまで行ってとっしり腰を落し、長いしゃべり、すっきりしたところと帰ってくるという面白いという不思議なおばあちゃんです。この人の持ち田のお米が美味しいというので石馬允で使わせてもらっています。大鹿の田んぼも稲刈りの済んで新米がいたと聞くと、お客様も喜んでいたと聞くとワクワクして正介さんが買いにこのおばあさんの庭へ行き、もらって来ようとしたら「それは7X7Xのぶをもらって〜」というので言われたとおりの30kg弱のお米の袋を車に積み、精米して持ち帰りました。ちよと水を控之日として炊き上げるのを楽しみに待ちました。期待に胸をふくらませて蓋を開けましたらフワ〜と香り〜おはせんお米とちよと硬い——雨続きで紅葉もぐたくいかなったのかな、と思...で、新米だと思...込んで毎日炊いていた...していました。昨日顔を合わせましたので直接あなたは新米だったのかと確認したくて聞きました。「んんは去年のたに...。まだ去年の残ってあるん下〜」と平気と言うのです。自分の家で食べるのだからそうするでしよりの、私たちがお客様にこの時、新米を、と思て買っているのに——。とみんがで怒れたことでした。